

# 柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌

住所：川崎市麻生区上麻生 6-40-1

柿生中学校内

電話：070-1503-6401/044-988-0004

<https://kakio-kyoudo.jp.org/>

第 207 号

シリーズ

杉山神社 1

新たな視点で杉山神社を考える

岡田誠治（郷土史研究家）

## 〔1〕杉山神社を考える上での問題点

## 地域偏在の神社群

関東地域にはいくつかの地域偏在の有力神社群が存在します。

中でも最も広く名を知られている神社群が氷川神社群です。その数約 250～300 社ともいわれる氷川神社ですが、その内約 200 社は旧武蔵国足立郡という南北に細長い地域に集中しており、残りが足立郡周辺に郡からはみ出るように存在しています（武蔵国足立郡の位置参照）。他の有力神社群に香取神社群と鹿島神社群があります。どちらも有名な神社（神宮）で、全国の広い地域に分布していますが、地域偏在の神社群と考えてよいと思います。地名度は高くありませんが、中小規模な



足立郡の位置：「足立区立郷土博物館」より

神社群としては氷川神社群の東側と香取神社群とに挟まれた狭長い地域に久伊豆（ひさいず）神社群、印旛沼北西地域に鳥見（とりみ、とみ）神社群、宗像神社群などがあります。そしてわれらが杉山神社群は『新編武蔵風土記稿』（以下『風土記稿』と略記）に従うと多摩川以南の武蔵国内という特定の地域に、73 社が存在していました（注1）。

分布地域は武蔵国の最南部 3 郡とその西側地続きの多摩郡のごく一部に限られています。比較的狭い地域に多数の神社が存在する状況は他の神社群とよく似通っていますが、決定的な相違点があります。杉山神社以外の神社群の祭神は同一の神様です。氷川神社はスサノオ尊、香取神宮はフツヌシノ神、鹿島神宮はタケミカヅチノ神が各神社群の祭神です（注2）。ところが杉山神社群では「五十猛命（イタケルノミコト・イソタケルノミコト）」と「日本武尊（ヤマトタケルノミコト）」の 2 神が拮抗して神社群の祭神となっているのです。しかもこの 2 神が祀られる由緒を伝える神社が 1 社も存在しないのです。唯一

「神社祝部家の系図」を持つのが茅ヶ崎杉山神社（注3）ですが、そこに書かれているのは安房国からやってきた忌部氏が創建し、祀る神様は当然のことですが忌部の神様だという内容です。しかしながら、現在忌部の神様を祭神とする杉山神社は 1 社もありません。当の茅ヶ崎杉山神社でさえ現在の祭神は「五十猛命」です。さて困りました。唯一の手がかりである祭神由緒が消滅しているのです。同一の祭神を奉じてその神社群が存在する場合、その背景を推測する上で重要な要素となります。前述の鳥見神社群の場合、祭神は饒速日命（ニギハヤヒノミコト）という神様です。さらにその息子の可美真手命（ウマシマジノミコト）をも一緒に祀っている神社もあります（神名漢字表記は日本書紀）。古代史に興味をお持ちの方はもうお気づきかと思います。この系譜は物部氏の始祖なのです。鳥見神社群の中で「とみ」と読む神社もあります。ニギハヤヒ命はナガスネ彦の妹と結婚し、ウマシマジ命が誕生します。このナガスネ彦は神武天皇の大和進出時に頑強に抵抗した人物で、「トミノナガスネ彦」、「トミビコ」と呼ばれました（トミの表記は登美、鳥見。地名としても存在する）。さらには可美真手命 10 世の裔に物部印旛連公という名もみえます。これらの状況から、物部氏と関連ある氏族がこの地に入植した可能性を考える大きな手がかりになります。

長々と他の神社群の話述べましたが、神社名と祭神名が繋がるとその背景を考える重要な手がかりとなる好例です。一方杉山神社群は「杉山」という神社名こそ同一ですが祭神が異なる為、上記のように背景を容易に解明できない、それどころかより一層複雑な事情を考えていかねばならないという神社群なのです。

(続く)

(注1)1)戸倉英太郎は72社としている。『杉山神社考』(昭和53年9月) p18。

2)一方小股昭は「杉山神社を考える～過去 30 年の研究実績の紹介～」(『大倉山論集』第 65 輯 平成 31 年 3 月) p180 において、「…『新編武蔵風土記稿』は「武蔵国都筑、橘樹、久良岐郡に 73 社の杉山神社の鎮座が確認でき…」と記している。小股は戸倉『前掲書』が『風土記稿』本郷村記載の稲荷神社末社杉山神社を記載していないことを指摘して、杉山神社は 73 社であるとしている。拙稿も 73 社説をとっている。

(注2)祭神名の表記は複数存在するため、カタカナ表記とした。

(注3)戸倉『前掲書』p.140に茅ヶ崎忌部氏の系図が記されている。なお、拙稿では杉山神社の呼称について、便宜上、頭に地名をつけて表記している。

シリーズ  
禅寺丸柿の歴史 17

## 近代における川崎市域及び横浜市北部地域での果樹栽培(17)

相澤雅雄(都筑・橘樹研究会会員)

## 明治後期における人気の甘柿・禅寺丸

明治後期における主な柿の品種として禅寺丸、御所柿、江戸一、代々丸、百目柿、上花、甲州丸、核子無し、西條、鶴の子、霜丸、蜂屋柿、南部渋、角衛門、衛門、於歌女、美濃鶴、角柿、天狗、升形、擬宝珠、妙圓、金時丸、八朔柿、ひがき、油壺の 26 種類が知られていた。このうち禅寺丸は、京浜市場で「キザ柿」「枝柿」と呼ばれた人気の甘柿であった。東京付近には、禅寺丸以外に有力な品種がなかったため、市場を独り占めしていた。ただ、品質が安定しないこともあり、大正期には御所柿と競合するのは難しいとさえ言われた。それでも近代を通じて甘柿の代表としての地位を保ってきた。神奈川県農事試験場長を務めた富樫常治は、自著『果樹園芸』(富民協会 昭和 18 年刊)の中で、有望な甘柿として富有、次郎、御所、花御所、禅寺丸の 5 品種をあげている。この中で禅寺丸は、栽培が容易で 9 月下旬から 10 月下旬に収穫でき、さらに柿がたくさんなることで評判が良かった。戦後になると、禅寺丸の他に富有や次郎の出荷も増えてきた。

## 禅寺丸柿の特徴

樹勢は強健で、枝は分岐が多く密生する。幼年時より結果する豊産の品種と言う。大きさは円形で小粒、かつ核(種子)が多いのが欠点とされてきた。都筑郡の土地に好適な柿樹で、屋敷地内や畑の周囲などに植えられてきた。手数は必要としない放任樹である。果皮は朱黄色・濃赤色を呈する。完熟すると朱赤色となる。光沢は少ない。果頂部にごまという黒点・黒斑を描く。果肉はやや堅いが甘味が強いのを特徴としている。10 月上旬より採取されるが、ことに霜が降りる季節になると、さらに爛熟し甘味が一層増すとともに、果肉も柔らかくなる。なお樹の若いうちは、実の下半部を中心に渋が多い。傷みやすく長期保存には適さない。熟度の程度によっては、渋が残るので不完全甘柿とも言われている。



禅寺丸柿 筆者撮影

## さまざまな禅寺丸柿の呼称

禅寺丸柿の呼び方については、『新編武蔵風土記稿』の都筑郡の「土産」の項に「王禅寺丸ト唱エヘキヲ上略シテ禅寺丸トノミヨヘリ」と記す。同書の王禅寺村の項でもやはり「柿ノ木ヲアマタウエテ ソノ実尤美ナリ 江戸ニテ禅寺丸ト称スルノハ此所ノ産ナリ モト王禅寺丸ト唱フヘキヲ上略シテ禅寺丸ト称ス」とある。また、天保 4 年(1833)10 月に江戸の西郊を旅した村尾嘉陵は、紀行文『江戸近郊道しるべ』(東洋文庫 448 平凡社)のなかで「この近く、稲毛領の山は柿多し、殊さら王禅寺といふ寺あるあたりより出るを、霜丸、禅寺丸など呼柿の至て美味なるもの也」と賞賛するとともに、「霜丸」「禅寺丸」と呼ぶと記している。

江戸時代のもので成立年代不詳の『柿品』中に果実の図とともに「ゼンジ」がとりあげられている。「ゼンジ」とは禅寺丸のことであり、江戸では「禅寺」とも呼ばれ、良く知られていた証左なのであろう。

今日、岡上では「禅寺丸」「禅寺」と、都筑区の牛久保では「丸柿」と称している。また 10 顆を 1 束にまるくことから「枝柿」「キザ柿」とも称した。

枝柿と呼ばれていた事例をあげてみる。池上本門寺の御会式の日に売られていた品目の中に枝柿が確認される。明治 32 年(1899)～同 35 年に出版された『東京風俗志』の覆刻本(昭和 50 年刊、八坂書房)に、10 月 13 日は日蓮忌である御会式で「大森より山門に至る間、栗餅、枝柿、麦稈細工などの店、舗くが如くに列なりて、雑選いうべからず」と見え、禅寺丸柿(枝柿)が露店で売られていた。信徒が万灯をささげ、お題目を唱え、かつ団扇太鼓をたたきながら練り歩くなか、さぞかし禅寺丸柿(枝柿)も飛ぶように売れたのであろう。筆者は、かつて「戦前に奈良の人たちは、池上本門寺の御会式の日には禅寺丸柿を売りに行った」と聞いたことがある。一般的には「禅寺丸」「禅寺」「丸柿」などと呼ばれている。(続く)



シリーズ  
歴史の中の女性像

## その 1 ナイチンゲールの世界 (22)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

## 晩年の生活

1865 年サウス街 10 番地に転居後、フローレンスは医師の勧めに従って、結婚した姉の住むバッキンガムシャー、クレイドンの莊園を訪れる以外、近くの公園を年に数回馬車で散策する程度しか外出せず、家での面会もすべて断るようになりました。どんな有名人も、政府の友人も、もちろん新聞や雑誌の記者たちも面会を断られていたのです。会えるのは、看護師養成学校のまとめ役も果たしていた聖トーマス病院のナイチンゲール・スクールの幹部など、ごく少数のメンバーに限られていました。フローレンスはベッドを仕事場として、せっせと手紙を書き、多方面に及ぶ著書や論文を書くことに没頭していたのです。体力の衰えを自覚していた彼女は、身体への負担の大きい面会を避け、ベッドでの仕事に集中していたのです。例外は看護学校の生徒たちで、看護師の卵たちは、いつでもミス・ナイチンゲールを訪問することが出来たのです。看護師の卵たちにとって、ミス・ナイチンゲールは、温かく優しいおばあさんだったのです。体調の管理には、厳しい訓練を終えたベテランの看護師と医師がいつでも駆けつける体制が取られており、英国中の訓練を受けた看護師たちの眼が自宅に籠るフローレンスに注がれていたのです。

フローレンスは世界各地から届く手紙にすべて目を通し、必ず返事を書いていました。書くことの好きな彼女は、世界各地から届く質問や助言を求める手紙に対し、丁寧な返事を書いていました。2001 年に失明した後も、音読してもらっては口述筆記で返事を出すことがあったのです。

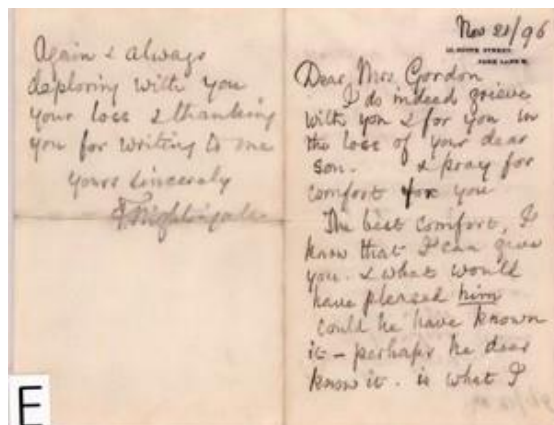
1962 年に二人のナイチンゲール研究家の努力下、フローレンスが生涯に著した印刷文献が 150 点に上ることが明らかになったのですが、その対象分野の広さには驚くべきものがあります。著作の多い順にあげていくと、最も多い看護関係の著作が 47 点と全体の 31.3% を占め、次いでインド・植民地関連が 39 点と 26% を占めています。続いて英国陸軍関係が 11 点、社会学関連が 9 点、病院関連と回顧録や献辞の関係が夫々 8 点、宗教・哲学関連が 4 点、統計学関連が 3 点、その他分類し難い文献が 21 点とされています。このうち 47 の著作が日本語に翻訳出版されています。今日ミス・ナイチンゲールの全著作は、カナダのリン・マクドナルド博士が編纂した『フローレンス・ナイチンゲール著作集』全 16 巻に収録されており、読むことが可能です。

フローレンスの直筆の手紙もまた、現在なお 12,000 通ほどが保存されており、こうした手紙類の一部もまた、著作集に収められています。その一部、カルカッタ総合病院で院長を務めるご子息と共に暮らすゴードン夫人に宛てた手紙を紹介します。

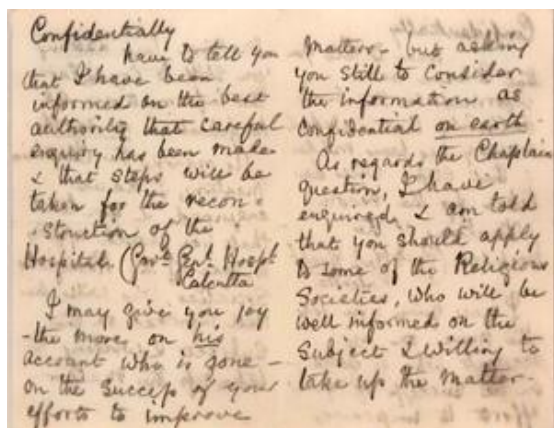
手紙でフローレンスは、院長が病院の医療に関する報告書を準備している事に感謝し、その出版と公刊の仕方をアドバイスし、自分が著書の推薦者となって推薦文を付けるなどと、大変な好意を示しています。さらに、報告書の出版に先立って、役所の関係部局に届けておくと、役所は公刊までに対策を考えられるので、前向きに取り組んでもらえる可能性が高まるが、そうしないで刊行すると、顔に泥を塗られたと防衛的になるので、正しい提案でも実現が大きく遅れることが多いので気をつけなさいと、自らの体験で骨身に染みている注意もしています。

(1896 年 5 月 19 日付け)。次いで同年 11 月 21 日付けのゴードン夫人への返書では、過労で亡くなられたご子息への弔意と婦人への慰めの言葉を述べた後で、「私があなたに差し上げられる最良の慰めは、一応入念な調査をした上で、できるだけ早期に国立カルカッタ総合病院を再建する手続きが取られるということです。これは信頼のおける筋から得た知らせですが、まだ内密の情報ですので、他にはお漏らしにならないようお気をつけくださいと記しています。それから 9 か月後、1897 年 8 月 27 日、今度はフローレンスから、国立カルカッタ総合病院の再建が正式に決まったという知らせがゴードン夫人宛に送られます。「カルカッタの総合病院のその後の進展ついて、あなたにお知らせしていなかったことを、とても心苦しく思っています。本来はあなたに一番に知らせなければいけなかったのに…。でも 1 時間として自分の時間が持てない私の忙しさを、お優しいあなたは分かって下さいますよね。…」

ほぼ寝たきりに近い状態にありながら、フローレンスがなお全力で社会的責任を果そうとしていたこと、政界や上流社会へのアンテナは、この時点でも十分機能していたことが伝わってきます。(続く)



1896 年 11 月 21 日付  
ゴードン夫人宛て郵便の表面



同じゴードン夫人宛て郵便の裏面

## 『文久二・三年王禅寺村御用留記帳』を読む — 3 —

飛田三枝子(柿生郷土史料館専門委員)

文久 2 年(1862) 正月 15 日王禅寺村より石川村へ「御拝借御鉄炮」の件で書状が出された(3 頁)が、御用留はこの次に「坂下門外の変」と後に名付けられる事件についての廻状を載せているので、鉄炮の話は 7 頁後半に続く。再び文之丞が出した書状で、読んでみると「..しかれば御拝借鉄炮御願いたて申しそうろうところ、例年の通りおおせつけられ候につき二月五日まかりいで着御届け、翌六日正四ツ時御貸し渡しにあいなり候につき」刻限に遅滞なく増上寺へ出張するようにとある。

日付は正月晦日。太陰暦では、1 年は大の月(1 ヶ月が 30 日)と小の月(29 日)が交互にくるが、文久 2 年 1 月は大の月だったので晦日は 30 日。陰暦には 31 日と閏年は無く、日数が少ないために生じる季節とのズレは数年おきに閏月をいれ、1 年を 13 ヶ月にして調整した。文久 2 年には閏 8 月がある。

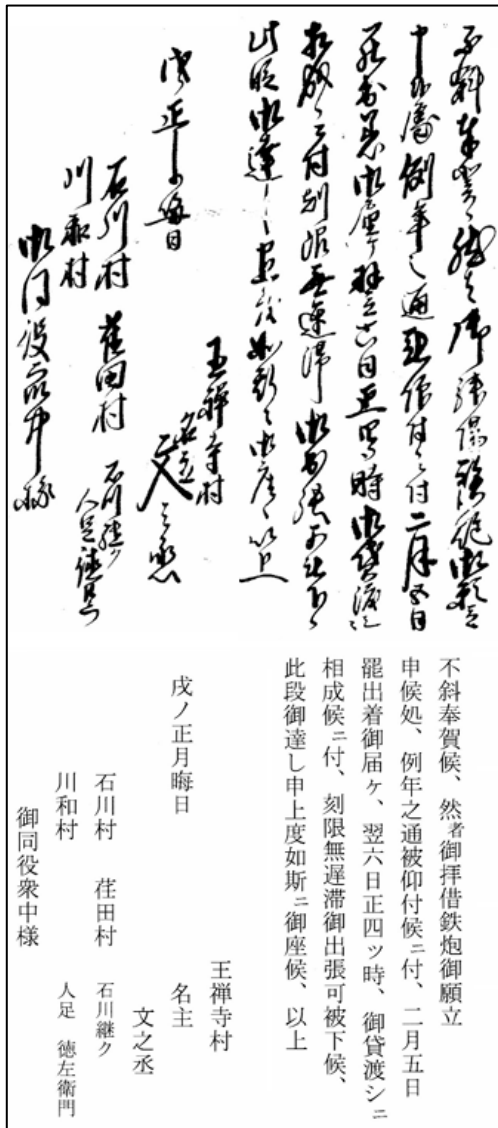
文之丞の書状の宛先は石川村・荏田村・川和村である。

ここで志村家文書にある鉄炮関係の史料を参考にとすると、元禄 12 年(1699)7 月に他領では耕作を荒らす猪や鹿に無玉鉄炮(実弾が込められていない鉄炮)を使用しているため、猪鹿は我々の村に逃げ込んでくるが、村は「ことに山谷深きところにて何様に追い申し」ても逃げ出していらず、「当御年貢より上納もなり申すまじく」と歎いており、「無玉鉄炮御赦免あそばされくされ候はば有り難く」と増上寺に石川村と連名で訴えた。鉄炮を許可するのは寺社奉行で、翌 8 月には無玉鉄炮が許された。その後享保の初めごろに王禅寺村を含む近隣の村々は鷹狩りのための禁猟区である御鷹野(鷹場)になり、鉄炮は取上げられたが、享保 14 年(1729)には 4 ヶ村(王禅寺・石川・川和・荏田)連名で願書を出し、今度は四季を通じて使え、重さ 3 匁 5 分玉を込められる、玉込四季打鉄炮が許された。王禅寺村 3 挺、荏田村 4 挺、川和村 2 挺、石川村 7 挺で、この数は以後変わらない。

その後は 4 ヶ村が組合をつくり、順番に惣代(当番)になって毎年 1 月に増上寺に拝借願書を出し、2 月に 4 ヶ村が鉄炮を借りに行くということになった。荏田村は御霊屋料では無いが、増上寺の本領というべき方丈領の村である。(資料 4 参照)

文之丞が 3 ヶ村に出した書状から文久 2 年の惣代は王禅寺村だったことが分かる。また 7 頁の前半は村の初寄合の記事で、そこに「御鉄炮拝借願 当番金之丞勤」とある。増上寺へ願書を出す勤めをした金之丞は村のもう一人の名主、当時 60 代半ばの伊左衛門の娘。2 月に借りた鉄炮は期日までに返す定めだが、この年は小さな事件がおきた。

(当史料館では鉄炮を 2 挺展示しています。『文久二・三年王禅寺村御用留記帳』は史料館で発売中。千円)



『御用留記帳』 部分

柿生郷土史料館  
第 23 回 特別企画展

## 柿生中学校考古学研究部の研究紹介 その 1 横穴古墳の研究 7 月 13 日(日)~11 月 9 日(日)

柿生中学校の考古学研究部は、1977(昭和 52)年 4 月に社会研究クラブとしてスタートし、連合文化祭に「古墳時代の柿生」と題するスライド発表を行った。当時、麻生台団地の造成工事が行われており、通学路として現場を通る 1 年生のクラブ員たちが、現場にスライドで見た横穴古墳によく似た横穴があると報告した。そこで部員全員で確認に行き、工事現場に横穴古墳があると、教育委員会文化財課に通報、調査の結果横穴古墳と確定、麻生台団地横穴古墳群の発見に寄与しました。乗り気になった部員たちは通学区内の古墳の有無を調べ廻り、下麻生、早野、王禅寺、真福寺などに多くの横穴古墳があることを発見、考古学研究部を創立、立派な活動記録を残しました。

記録の寄贈を受けましたので、横穴古墳研究の調査ノートと研究成果、実測図などを展示します。柿中の先輩たちの素晴らしい成果をご覧ください。

## 柿生郷土史料館 開館日のご案内 【参加自由、入場無料】

◎開館日 : 8 月 2・9・16・23 日(土曜日) 9 月 7・14・21・28 日(日曜日)

◎開館時間: 午前 10 時~午後 3 時